

KSKP Threshold

一般社団法人 神戸ダルク ヴィレッジ ニューズレター Vol.10

～すれっしょんど～(出発点)

神戸薬物・アルコール依存リハビリテーションセンター

スレッシュホールドとは、新たな出発点、飛び立つ場所という意味です

Drug Addiction Rehabilitation Center

DARC



仲間たちが飛び立っていく年の始まり

みなさま、新年あけましておめでとうございます。神戸ダルクヴィレッジを開設して3回目のお正月を迎えました。最初の年は私と妻で静かな正月でした。翌年はダルクの仲間たちと一般的な普通の家庭でのお正月を迎えることができました。今年も昨年より成長した仲間たちと共に、普通の家庭にあるお正月を過ごしました。そんな仲間たちから見える景色はどのように変わってきたのでしょうか。回復は一日にしてならず。この言葉のように、時が過ぎていくにつれて回復のありがたさを無限に感じていく気がします。実際に私がそうです。薬物がやめられない頃、毎日毎日どんどん暗闇が広がっていった自分ですが、今はその逆です。不思議なものです。

さて、昨年は私も後半に入院などを繰り返し、健康に生きることをしっかりと学ぶことができました。私が常に幸せに向かう生き方をしていくこと、そのためにがむしゃらに仲間のために走ることはない方法を学ぶことを忘れないと誓いました。

今年は神戸ダルクの卒業生などが次のステップアップに進んでいく年です。最初につながった頃からの回復に立ち会えたことに、心が嬉しく震えます。ダルクで生きる道を選ぶ者、学びを選ぶ者、仕事のトレーニングを始める者…それぞれの道がつながっていきます。

今年の神戸ダルクは、新しいスタッフも増え、新事業をスタートしていきます。ダルク卒業生たちのためのプロジェクトです。これには地域のつながりがなければできません。神戸の地域の皆様との繋がりをつくることに専念する年になるでしょう。地域に旅立っていく仲間の生き方を支えるために。今年もどうかみなさま神戸ダルクヴィレッジをよろしく願います。

一般社団法人 神戸ダルク ヴィレッジ 代表理事 梅田靖規

一般社団法人 神戸ダルク ヴィレッジ

自立訓練(生活訓練)神戸市障害福祉サービス事業所 デイセンター リカバリー

〒651-0068 兵庫県神戸市中央区旗塚通1-1-20 長坂ハイツ 2F

TEL 078-224-4244 FAX 078-219-9741 e-mail kobe.darc@gmail.com

www.kobedarc.org

神戸ダルク

検索

WFTC 治療共同体世界会議に参加して

一般社団法人 神戸ダルク ヴィレッジ 代表理事 梅田靖規

10 月の末にタイ王国 バンコクのレンブラントホテルで行われた WFTC(世界治療共同体世界会議)に参加してまいりました。今回は神戸ダルクに現在非常勤として、ともに研究事業を行なっている神戸大学大学院保健学研究科博士課程後期の田中千佳さんとともに会議に参加させてもらいました。日本からは他にも沖縄ダルク代表の森さん、フィリピンプロジェクトではお世話になったアバリの古藤吾郎さん、他に法務省矯正局の方々も2名参加されていました。そもそも WFTC とはなんぞや? という感じだと思うのですが、米国の私たちダルクのような依存症リハビリ施設のルーツで、ナルコティクス アノニマスのような自助グループとは別に、シナノンという現在の施設の黎明期の組織がありました。シナノンゲームとは有名で、今のエンカウンターグループ(カールロジャーズのそれとは一部違う部分があります)よりも攻撃的なものと想像していただければいいのですが、当時の治療技法としては画期的でありました。が、時代が流れ、カルト化していったシナノンは消滅し、そのあとに現在の世界中にある施設形態のルーツとも言える、TC(セラピューティック コミュニティ)という治療共同体がニューヨークのデイトップヴィレッジやフェニックスハウスなどのやり方を元に米国中に広がっていきました。その流れが世界中に広がり、依存症治療にかかる予算はないが薬物問題が蔓延している東南アジア諸国にも、この TC が広がっていきました。しかし、この後にも話しますが、TC が衰退していくのです。その一念発起を目指すかのごとく、今回の WFTC は開催されたのです。



そもそも私ごとですが、WFTC には非常に強い思い入れがあり、今年の 10 月の開催は、どんなことがあっても参加する必要があると感じていました。それはたとえ、TC が時代遅れになってしまっていたとしても参加を楽しみにしておりました。

というのも、今から 6 年前になるのですが、まだフィリピンでのプロジェクトも全く考えていない頃です。私は社会復帰の傍、依存症回復支援の場所で生きていくことを心に決めて活動をしていました。その中で、僕がダルクの職員になろうと最初に思った、群馬ダルクの研修の時に TC プログラムというものに出会い、私は TC、米国の治療施設で、回復の違いをいつかちゃんと見たいと思っていました。

そのために米国の施設で働けないかということ、当時の京都ダルクの施設長(現 木津川ダルク施設長)の加藤武士さんに「米国の施設で働きたい。それと、世界の NA がそんなに素晴らしいなら自分の目でそれが何なのか経験したい」と無茶な相談をしていました。そのときに武士さんが、アミティで生活した経験のある現 NCNP の引土絵未さんと、東海大学の宮永耕先生を紹介してくれました。すると宮永先生から武士さんのところに「とりあえず、だったら今月バリ島で WFTC があるから私も行くので、そこにきてください」という連絡がありました。今思うと私も無茶ですが、その連絡も無茶だったと思います。それがちょうど 6 年前です。WFTC は 2 年に一度開催されていました。その 2 年後はメキシコのカンクンで行われ、宮永先生と現地で合流し参加しました。カンクンでの WFTC の前に、引土さんのサポートもあってアリゾナのアミティに数ヶ月滞在し、カンクンの WFTC の後にそのままニューヨークのデイトップヴィレッジに 40 日ほど滞在しました。そのカンクンの WFTC の 1 週間前にデイトップヴィレッジの創設者ウィリアム・オブライエンが亡くなっていたことから、

大きな潮流の変化を感じる会議であったことを覚えています。その 2 年後にはアジアで開催されると言われていましたが、結局なんの動きもなく、TC という時代は終わってしまったのか? と考えていましたが、メキシコ カンクンから 4 年後、2018 年 10 月にバンコクで開催されたのです。つまり、私は 6 年前に治療共同体というものを学び始め、現在に至るのですが、凄まじい変化が起きているのを自分の目で見てきました。

そのことを簡単に話しますと、ちょうど 6 年前の WFTC に参加した時は、いわゆるデイトップスタイルのフィロソフィーに合わせた厳しいプログラムの TC があり、その頃から東南アジア



初めての WFTC、バリ島にて宮永、加藤、梅田

政府機関などではTCプログラムが導入されていきました。その流れに合わせ、治療共同体というものを時代の変化に合わせて解体し、もう一度作り上げていく必要がある。という会議だったという強い印象があります。参加団体も非常に多く、参加者も当事者カウンセラーが圧倒的に多かったのを覚えています。そのために会場の中でNAのミーティングなども開かれていました。そこからの変容がTCを変えていく序章になっていきました。今から4年前のカンクンでの会議(私はタコス毎日食べていました)は、先に話した通り、デイトップの創設者が亡くなったことも含めて、デイトップスタイルから派生した団体・施設が独自の動きをしていきました。というのも、オバマケアという言葉を知っている人もいますが、保険制度などの改革をオバマ大統領が行ったことで、逆に大型施設などに支援される莫大な資金が一気にカットされ、生き残り合戦が米国では起こっていきました。統合する施設、独自の歩みを展開する施設、全く新しい流れを作る施設、東南アジアなどに進出してコスト削減を狙う施設、などなど、俗にいう戦国時代のような状況になっていったのです。それに合わせて、東南アジアでは政府主導などのTC施設を大きく展開したものの、従来の昨日したTCとは全く違い、デイトップコンポーネントに全くそぐわない施設展開になっていきました。これは理解不足と、

コスト不足による、東南アジア的な問題も起こっていきました。このことからTCの評判はアジア圏では急速に落ちていき、世界的発展にストップがかかったようにも思いました。そのことから、カンクンのWFTCは、かなり規模の縮小されたものになっていました。しかし、各国で独自のスタイルで発展していったTC施設など(例えばマレーシア、インドネシアなど)は、大きく組織化していったのと同時に、TC連盟での繋がりというもの希薄になっていったと思います。その象徴として、4年前のWFTCの後、開催はおろか、ウェブサイトなども一切更新されていない状況でした。これは全世界にある治療共同体連盟全てにおける動きでした。そして、今回のWFTCが、バンコクで行われることになったのです。私が大きくクエスチョンマークをつけたことは、大会役員などが完全に入れ替わっていたことです。その象徴としてハームリダクションなどで日本でも有名なオーストラリアのガースさん(WHOS)などが主導でこの大会は開催されました。



デイトップヴィレッジのAJと4年ぶりの再会

従来の、当事者回復者役員というようなスタイルとは一新し、研究者、施設経営者というような顔ぶれで会を開催した流れを感じました。実際に、発表された内容も、私が知っているTC独特の内容ではなく、医療モデル、福祉モデルの日本でも普通に聞きそうな内容が中心でした。また、TC連盟自体も実際には機能していない地域も多く、独自で新たなゾーンの連盟も非公式で発足されていたりと、水面下で大きな変革があったことを感じています。これは、何年も参加していなければ感じないことで、ハームリダクションがどうやってTCと融合していくのか?という疑問も、今回初めて参加の方にはわからないほどの変化を感じました。

さて、実際の今回のWFTCなのですが、私と田中さんが感じたことなどを伝えたいと思います。まずは、オーストラリアを中心としたATCAという治療共同体のオセアニア地域の治療共同体連盟では、TC連盟加盟の条件としてのコンポーネントの一つに「ハームリダクションを取り入れていること」という文言が基準の一つになっているそうです。これは、6年前では考えられないことだったと思います。もうハームリダクションがデフォルトになっていることが世界のスタンダードだとすると、この鎖国日本はどうなっていくのかと疑問符がつきます。それに加えて、ハームリダクションに関しての、誤解や理解不足を解いていく活動が完全に進んでいるように思いました。元々は公衆衛生の視点でHIVなどの蔓延を恐れた国際的懸念や過量服薬、注射使用の増加に加え、理解不足や支援の質や量も十分でなかったことから始まっていった流れの中で、誤解



今回のWFTCを企画した長い付き合いのタンヤラクの心理士ノン

や論争などを経て、組織内部の問題、組織外部の問題、協働関係機関の構築、実践などから現在につながっていることをしっかりと伝えていました。特に組織内部の問題として、断薬主義との対峙に関わる様々なことがらについても、私たちが疑問に思っていることを明確に伝えてくれたことで、私たちが、さあ、今からどうしようということではないですが、今後の回復支援のパスペクティブ(視点)変容のアイデアになるだろうと感じられました。また、現在の施設の入所期間平均が4ヶ月ということに驚かされました。驚かされたのはその中身です。というのも私が知っているデイトップなどの数年前の平均入所期間は最低でも1年から2年というものでした。これは、TCが成長し、施設の中身が急激に効果的になったとか、政府からの予算が出なくなり期間が短くなったということではないようです。その大きな理由が、地域の理解が急激に進んだことと、12ステップグループなどが、米国と同じように、内容も含めて急成長したことで、社会復帰者が自信をつけた。ということのようです。この部分は私が最も神戸ダルクにおいて重要視して



スリランカの高僧で自分の地位を捨てて少年たちの薬物依存の治療に全てを捧げているミツルミツロム・ブメントの代表



フレディとの思い出の出の時間
デイトップヴィレッジ・レインベックにて



カンクンでのWFTC、各国のTC施設代表たちとA.J.宮永、梅田 2014。



W・オブライエンの遺徳から始まったWFTCカンクン メキシコ 2014。

要素を削いでしまっているような部分をもう一度取り戻していくスタッフ教育のあり方でした。また、私がアミティで学んだことである「健康」というアプローチを再確認させていただきました。キッチンに最も投資することの意味を私はアミティでの生活の中で強く学びました。実際にその20%もできていないのですが、今後の神戸ダルクでは、私自身の健康管理も含めて、スタッフの協力を得ながら、変容していかうと考えるきっかけとなりました。薬物が止まった命を十分に楽しむことが与えられなかったら、本来の仕事をしていないのと同じことだからです。その他、これまで回復が難しかった仲間のケアに対してのアプローチなども様々なものが提示されました。それには専門的知見とそのマンパワーなどが必要不可欠ではありますが、その部分を神戸ダルクがどのようにアプローチしていけるかということを考えると、武者震いもします。そんなアイデアが満載の会議でした。この4年間の沈黙を一念発起して再出発したWFTCという船に、もう一度乗っていきたくて、ここから思えました。それは、ダルクの本来の流儀を忘れないことでもありと再確認しました。私は、治療共同体の考えの中で一番注目してきたのは、フィロソフィーの共有でした。今回のWFTC参加は、そういった意味で、より効果的なプログラムを、砂上の楼閣にならないようにスタッフ一同で考えていきたいと思っています。その陰で、私たちが大切にしているスピリチュアルな温かい回復施設になるようにということも精進したいと思います。また、私はタイでの活動もトータルすると数ヶ月あるのですが、以前私が働いていたアパリのときに関わったクライアントがチェンマイの施設で受け入れられたことから、今回参加していたタイのTCのドクターと個人的に多くの話をしました。そして3月か4月に、そのクライアントの家族に会うことと、チェンマイの政府機関にも招かれ、今後も、見守りながら関係性を構築していく話もできました。私が神戸ダルクに「ヴィレッジ」という屋号をつけたことも、デイトップヴィレッジからの流れであることはいまでもありません。それも私がデイトップに滞在していた時に共に過ごしたフレディから多くを学んだからでもあります。というより、フレディは本当に友達のように気さくで優しくかったです。そして当事者であることから、私の回復に対してたくさんのアドバイスをくれました。彼はこの大きな流れの中で、退職してしまいましたが、彼のような人と仕事がしたいという願いから頂いたものでした。これから2年後にWFTCが行われるか、どこで行われるかすら、定かではありませんが、私のルーツである治療共同体世界会議には今後も参加していきたいと思っています。またどこかで報告したいと思っています。神戸ダルクヴィレッジの活動に活かすための協働とヴィジョンを与えてくれたWFTC参加でした。

研修スタッフになって ヒコ

みなさんこんにちはアディクトのヒコです。ダルクにつながり1年が過ぎて、これからの目標を聞かれてどうしようかと悩んだ自分は、ダルクを離れるのは怖いと思いました。一人で生活する事も考えましたがダルクを離れれば色々な誘惑に勝てるのか、いや自分は今のダルクを離れると薬の誘惑には勝てない。今は仲間の中にいることでなんとか誘惑に負けないでいるけど、それに色々な問題がのしかかってきたらその重圧には勝てないと思いました。そしたらこれからどうするのかってなった時、仲間の中に居続ける事は出来ないかと考えたら、スタッフになって仲間のサポートをすることが出来る、そうすればダルクに居続ける事ができるんじゃないかと考えました。今年の夏くらいからぼちぼち新しい仲間のサポートや寮での長をしています。遠出をした時のサポートなど今まではスタッフが一人ついてきてサポートをしてもらっていたけど、スタッフ抜きで色々なところへ行けるようになりました。自由が与えられたけどその自由には責任がついてくるようになりました。時々、その責任の重さに大変だと思う時もあります。仲間の中には言うことを聞いてくれない人もいますのでまとめるのに苦労することもあります。寮でも特に朝が大変で皆、時間になっても起きてくれないので朝一番に起こして回らなければなりません。ダルクのプログラムでどこかに行くとき皆を引率して目的地まで連れて行き、帰りも皆がはぐれないように連れて帰るなんてことは簡単なことだけど、けっこう神経を使います。昼間とか暇な時間が少なくなったけど考え事をする暇が無くなって、充実した時間が過ぎていくようになりました。これであと一年もすればスタッフになっているかもしれない。スタッフの仕事はまだまだ全然解らないけどゆっくり学んでいこうと思います。



天国屋カフェのボランティア タケ 神戸ダルクにつながって マーくん

僕は今、週に2~3回天国屋カフェにボランティアに行っています。最初はとてもしんどかったです。でも慣れればよいと言う代表からの言葉をもらいました。初めて食器洗いと言うしんどさに直面しました。多いときは50人分の食器を洗わなくてはなりません。少ない時でも35人程の食器を洗わなくてはなりません。でも早く社会復帰したいがためにそういうボランティアにつきました。両親もそれを知ったら嬉しいと思います。一歩成長したなあと思います。僕の今後の目標は早くお嫁さんを見つけてお父さんお母さんに自分の子供を見せてあげる事です。今がチャンスです。僕も46歳で、50歳になるとなかなか恋愛も出来なくなります。今は自分の回復だけが大事です。もう二度と薬には手を出さないと決心します。また薬にはまったら、親の顔も見れないでしょう。親孝行してあげたいです。

アディクトのマーくんです。僕は刑務所から出所して4カ月になります。僕は薬物をする前は、まじめに仕事についていました。薬物を始めたころから、仕事を休むようになりました。それで仕事をクビになりました。仕事が無くなり、職業安定所に行って仕事を探しましたが、なかなか見つかりません。それで生活保護を受けるようになりました。生活保護を受けたら仕事もしなくなり薬物にはまりました。薬物をはじめたのは30才の頃、知り合いの勧めでした。最初薬物をした時は気持ちよくなり、それで夢中になりました。薬物を買うお金がなくなり親からお金をとって買いに行きました。そのうちに警察につかまって刑務所に入りました。刑務所にいるとき代表が面会にきてくれて「こういう所があるからどうや」と言ってくれました。刑務所から出て施設に入りました。施設に入ってから薬物も止まりよかったです。これからもクリーンを続けて行こうと思います。

ダルクに繋がって

アディクトのクリヤんです

私はアルコール依存症でダルクに繋がりました。二十歳の頃からお酒を飲み始めて、その頃は自分がまだアルコール依存症とは思っていませんでした。仕事は建設関係の仕事や飲食関係の仕事などしていましたが、職場で揉め事を起こしてクビになり、あおる様に毎日飲むようになりました。生活が荒れて仕事もいけなくなり、親も亡くなったので、生活保護を受けるようになりました。一日千円のコブかいで、十日で一万円の生活が始まりました。その千円のコブかいで、お酒を毎日飲み、お金が足らなければ兄弟に借りていました。そして、さらに生活が荒れて、万引きなどするようになり、警察に逮捕され刑務所に3回入りました。そして、3回目の刑務所の時に、福祉のケースワーカーの方が面会に来てくれて、ダルクを紹介してもらいました。今、ダルクに繋がって3ヶ月になりますが、まだ慣れていません。今までのお酒の飲み過ぎで体も壊してしまったので、ダルクで、アルコール依存症の治療中です。ダルクに繋がって、始めのうちはプログラムなどで色々な場所に行き新しい仲間と出会い、戸惑っていましたが3ヶ月が過ぎて少しは落ち着いてきました。このまま何事もなくお酒を止めて、ダルクから社会に出ていきたいと思っています。そのためにはダルクのサポートが必要です。今はお酒を飲まないクリーンな毎日を過ごしていますが、このまま本当にお酒を止めて行けるのかは、正直自信がありませんが、今日一日を大切にしようと思っています。



回復の

新年の目標

- ウメ 六甲全山縦走なりよ
- ユウ 毎日を丁寧に生きる
- デビン 創作エイサー叩いてみたい
- ヒコ 仲間のサポートが出来るようになる
- チャン 小さな幸せを感じていく
- タケ いつまでも回復を大切に！！
- マーくん 薬物を使わずにクリーンでいる
- クリヤん 一日一日 酒を吞まずに行きましょう
- ゆうき 通院 自助グループ 抗酒剤の三本柱で頑張る
- マサ 進化する 深化する
- ゲン 自己実現する

- 下浜 机の上を毎日片付ける
- 石井 計算間違いをしない



活動報告

2018年11月(17日より)

兵庫県薬務課フォーラム参加

神戸栄光教会ミサ寄付金贈呈授与式参加

サービス管理責任者講習

消防&避難訓練実施

三河ダルク地域連携フォーラム参加(岡崎)

12月

苦情解決セミナー参加

年末大掃除実施

ルミナリエ参加

アドバイザー派遣報告会参加

神戸女学院大学講演&模倣MT

兵庫県社会福祉士会研修会講演

天国屋カフェ ボランティア

NA 兵庫忘年会参加

クリスマス家族会合宿

クリスマス会&クリスマスミサ参加

外部講師(ちえぞう)を招いてのグループワーク

年末おせち作り

年越しプログラム実施

2019年1月

初詣

神戸三田アウトレットイルミネーション参加

六甲山を歩く会実施

バンドー青少年科学館見学

ゴルフプログラム(無料ゴルフレッスン)参加

トム・M クリーン50年バースデー参加

アゲインファーム ボランティア 月2回

垂水病院メッセージ 毎月第3火曜日

垂水病院スマーブ 毎週金曜日

神戸保護観察所スマーブ講師 毎月2回

神戸ダルク家族会 毎月第4日曜日

明石保健所家族相談 毎月1回

アディクショフォーラム実行委員会 毎月1回



近況報告・活動予定

年末は今年もNHK 歳末助け合い助成のおかげで、年末年始交流会を開催することができ、温かい愛の溢れる会ができました(次号でお知らせ)

助成金による事業についてのお知らせも次号で特集いたします。

また、新たなプロジェクトで、今年より畑を借りることができました。土いじりが好きな仲間の支援が始まります。また、食にこだわったプロジェクトも始まります。2019年、三年目の正直で、神戸ダルク邁進の年になりそうです。

神戸ダルク ヴィレッジ広報誌「Threshold」 年間購読のお願い

この広報誌「スレッショルド」の年間購読のお願いです。障害者低料第三種郵便物の取得が遅れており、皆様をお待たせしてしまいましたが、漸く第三種郵便物の取得ができました。年間購読費は年6回発行で2000円になります。お申し込みはFAX、電話、メール、または同封の振込用紙にてお願いいたします。お申し込みの際は「住所・氏名・電話番号」を必ず明記ください。

※ 配布用に、当ニューズレターを置いていただける場合はご連絡ください。たくさんの方に読んでいただけるように希望数を郵送いたします。私自身もこのような広報資料を見つけたことがきっかけで回復の場所を見つけることができました。ぜひ、まだ苦しむ依存症者の助けとなるようにご協力ください。

支援会員のお願い

神戸ダルク ヴィレッジでは、支援会員として、活動を支えてくれる方を募集しています。

兵庫県の薬物依存症者を助ける活動をご支援ください。
個人会員は1日 3000円(ニューズレター定期購読料を含む)からになります。刑務所内の方々の文通による支援のための切手代などに使わせていただきます。

ご連絡をお待ちしています。

領収書希望の方は一言ご記載ください

神戸ダルク ヴィレッジ

TEL 078-224-4244 FAX 078-219-9741

e-mail: kobe.darc@gmail.com

電話相談 来所による面談 メール相談
相談の内容に関する秘密は厳守します

逮捕・勾留中の方々への支援

刑務所・拘留所・留置所への面会、手紙などによる逮捕者及び保釈中の方々の裁判での情状証人出廷や、刑務所出所者への薬物からの回復を希望する方の引受人としての指導対応や、出所前面談など、他機関と連携しながら対応しています。また、資料請求などもご連絡いただければ対応いたします。

★月曜～金曜 10:00～17:00

メールは24時間OK。 kobe.darc@gmail.com

神戸ダルクへのご献金・献品のご支援本当にありがとうございました。

開設から今日までをたくさんの方々に支えられてきたおかげで、仲間一同、回復のプログラムに取り組むことができています。心より感謝いたします。これからも暖かく見守ってください。

ご献金

新田正彦様 日本キリスト教団 神戸栄光教会様 渡辺まり様 笠置伸子様 藤澤真知子様

ご献品

西村英八郎様 尾崎ひとみ様 富田安代様 西村清美様 竹川智恵子様 播磨社会復帰促進センター様

上野利行・智香様 佐々木明里様 浄土宗 金泥山 西蓮寺 貴田賢二次様 牛田三千子様

(平成 30 年 11 月 8 日～平成 30 年 12 月 24 日到着分・順不同 ※購読料の方を含む)

献金・献品をお願いいたします。

いつもご支援いただき誠に有難うございます。毎回のお願いで本当に心苦しく思いますが、運営維持のためのご寄付及び、ご家庭で余っている日用品の献品をお願いいたします。

薬物依存症者への初期の支援は、様々な問題や面会、面談、訪問、手続き、会議などで追われてしまいます。が、そのような支援、さらに刑務所入所者、逮捕者への支援は、すべてボランティアにて行われています。しかし、そのような支援が本当は一番大切であり、依存症者の回復のチャンスを絶やさないようにしたいと考えていますので、何卒ご支援のほどよろしくお願い致します。

また、ご家庭で余っている食料品(米、野菜、乾物、味噌、醤油など)から洗濯洗剤やシャンプー、石鹸、などの日用品などがございましたら、神戸ダルクまでご献品ください。グローブなどもございましたら是非送譲ってください。

ご寄付振込先口座 ゆうちょ銀行

口座番号 00950-9-275937

口座名 シヤ) コウベダルクヴィレッジ

店番 〇九九 0275937

献品の送り先住所 651-0068 神戸市中央区旗塚通 1-1-20 長坂ハイツ 2F

一般社団法人 神戸ダルク ヴィレッジ

編集後記

クリスマスが来たと思っていたらあっという間に新しい年が明けていました。

クリスマス会やお正月の準備と年末は大忙しでしたが、仲間と一緒にクリスマスやお正月を迎えおいしいものを食べたり、ゲームをしたりして楽しむことができたのではないのでしょうか。回復の道は大変なことも多いと思いますが、仲間と一緒に楽しい時間を過ごすことで乗り越えられることも多いのではないかと思います。初詣で仲間たちは何をお願いしたのでしょうか。皆様にとって良い年になりますように。

神戸ダルク ニューズレター Threshold (出発点) Vol.10

編集人 一般社団法人 神戸ダルク ヴィレッジ 石井奈美

印刷 プリントバック

〒651-0068 兵庫県神戸市中央区旗塚通 1-1-20 長坂ハイツ 2F

TEL 078-224-4244 FAX 078-219-9741

e-mail kobe.darc@gmail.com

www.kobedarc.org

価格 1部 100円 年会費 2000円

(購読料は年会費に入ります)

発行人 関西障害者定期刊行物協会

〒543-0015 大阪市天王寺区真田山町 2-2 東興ビル 4 階